

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	有明幼稚園・おおぞら保育園	
建設地	中央区 文京町18-1、18-5	
用途地域	第一種中高層住居専	
建物用途	学校,	
竣工年	2012年3月 予定	
敷地面積	2,940.17 m ²	
建築面積	1,514.58 m ²	
延床面積	2,393.68 m ²	
階数	地上2F、PH1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2011年7月29日	

2. CASBEE新潟の評価結果

 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{58}{35} = 1.6$
---	---	--

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	2.7		バリアフリー	Q2.1.1.3 1.0
			維持管理	Q2.1.3 4.0
			更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	LR1.1 3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.7		節水	LR2.1.1 3.0
			リサイクル材の使用	LR2.2.4 3.0
			再利用可能性向上	LR2.2.6 5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	Q3.1 4.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	5.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 5.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

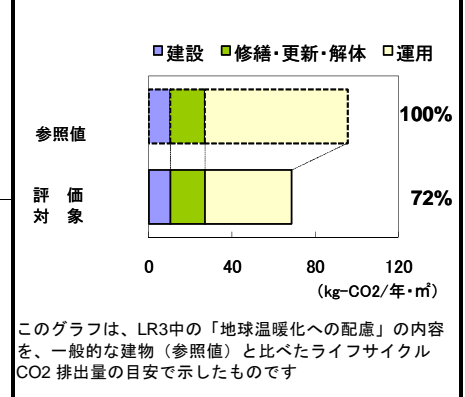
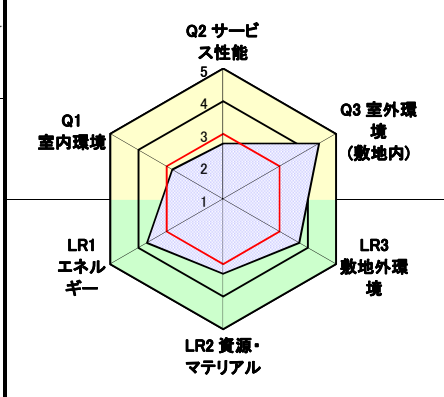
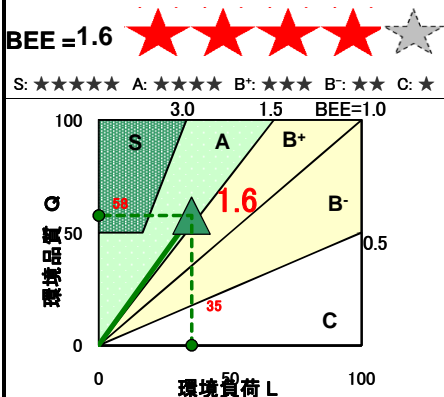
- 長寿命化への取組み → 空調配管、給排水、通信配線とともに構造部材を痛めることなく更新可能である。
- 地震への取組み → 建築基準法に定められた耐震性を有する。
- 大雨への取組み → 該当なし。
- 自然エネルギー利用の取組み → 太陽光発電を利用したシステムを計画している。
- 資源環境への取組み → 節水コマや、非構造材料の再生クラッシュランを使用し、部材の再利用も可能である。
- 水と緑を活かす取組み → 既存植栽をほぼ現状維持し、外構面積の約24%を緑化している。
- 新潟のまちなみへの取組み → 空中歩廊や木かげウォークなど建物内外を連関づける中間領域を形成している。

CASBEE[®]新潟

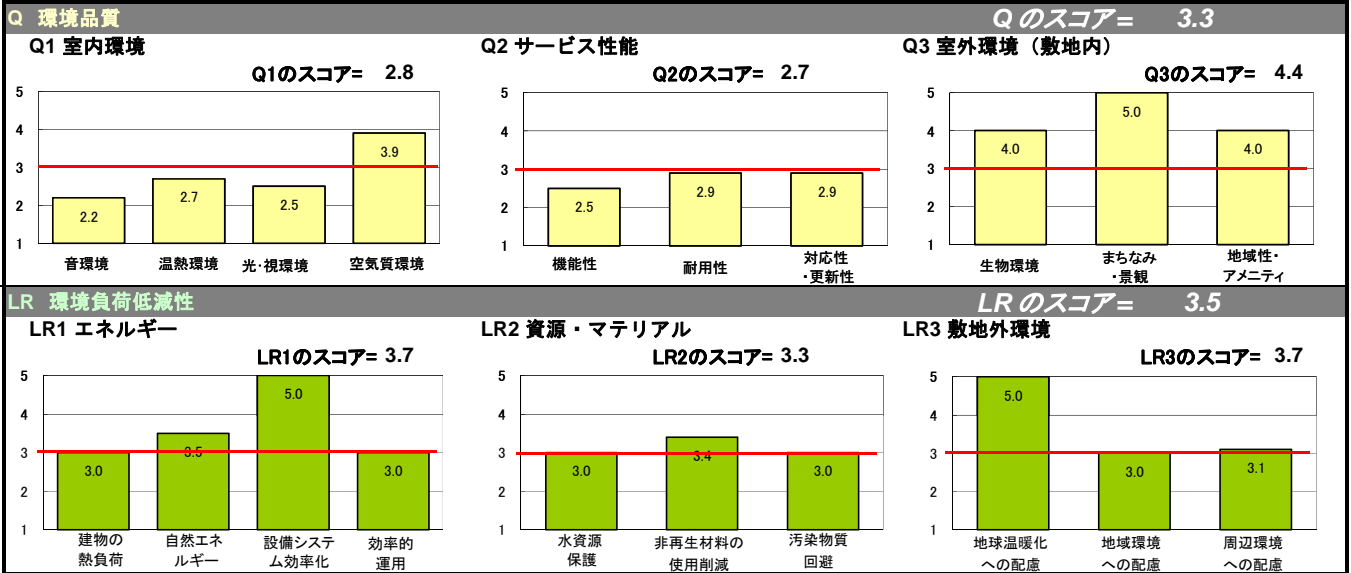
評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合		その他
就学前の教育・保育を一貫して提供する、新しい制度である【認定こども園】の特色を踏まえ、エントランスホールに隣接した位置に食育コーナーを設け、全ての子どもたちに食に対する信頼感と意識改革を奨励しました。また、幼・保17の相互間にふれあい広場や絵本コーナーを設け認定こども園としてお互いの機能を付加し、積上げてきたたくみを維持しながら、枠を超えた質の高い子育て支援を担うよう計画しました。		幼稚園教育要領と保育指針それぞれの主旨が、十分に反映されるよう、幼稚園・保育園の利用年数、利用時間の相違点を考慮した一体的運用を計画しました。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
通常の空調システムではありませんが、居住域の上下間の温度差等に配慮し、換気量も建築基準法の1.2倍を確保しました。建築材料は極力化学汚染物質を排除し、ほぼ全面的に告示対象外、及びF☆☆☆☆を採用しました。	内装材一部に自然素材である県産杉を利用し、湿潤機能や五感への癒し効果のある快適な空間を可能にしました。また多様な通信設備の採用や節水型器具を採用した給排水など、利便性と機能性に加え環境へも配慮しました。	建物内外を連関付ける空中歩廊や、木かげウォークを設けるなど豊かな中間領域の形成を図りました。また豊富な既存植栽をほぼ現状のまま残し、外構面積の約24%の緑化を図るなど、景観形成と敷地内温暖環境の向上に配慮しました。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光発電を設置し、自然エネルギーの変換利用によるエネルギーの確保と、複層ガラスの採用による自然通風と採光を確保し、高効率照明器具を採用しました。	建築躯体の再利用は行わないため資源生産性の度合いは低くなっていますが、再生クラッシュや県産杉材の採用や、分別可能な部材を採用し、再生可能な資源の活用を努めました。また、断熱材はODP=0~0.01の物を使用するなど、汚染物質含有材料の使用回避にも極力努めました。	東西に伸びる比較的大きな敷地に、保育室を南に面して配置することにより、建物の見付面積比は約4%、中高木・ピロティ等の水平投影面積においては約17%を示すなど、日影形成及び夏期の卓越風光にも十分に確保できるように配置計画しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される